

勝利への道

2006. 8. 6 (日)
西軽井沢福音センターにて
ベック兄メッセージ (メモ)

引用聖句

コリント人への手紙・第一 1章4節から9節

私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。と言うのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで堅く保ってくださいます。神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

コリント人への手紙・第一 15章1節から4節

兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

コリント人への手紙・第一 15章5-5節

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」

コリント人への手紙・第一 16章1-3節、14節

目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。いっさいのことを愛をもって行ないなさい。

先週、私たちが一緒に学んだテーマは、『日々新たにされる必要性』についてでした。つまり勝利の秘訣について考えたのですが、今日は「勝利の生活への道」について、ともに考えたいと思います。

最後に読まれた箇所をもう一度読みましょう。

コリント人への手紙・第一 16章1-3節、14節

目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。いっさいのことを愛をもって行ないなさい。

このみことばで、使徒パウロがコリントという大きな町にいる兄弟姉妹に、勝利の生活への道を示しています。彼らにはそれが必要だったからです。というのはコリントにいる兄弟姉妹は、多くの点で混乱していたからです。パウロは、「いわゆるキリスト教の教え」を伝えようとしたのではありません。彼の手紙全体は、コリントにいる兄弟姉妹のかかえている苦しみに対する、主なる神の答えそのものだったのです。

コリントにいる主イエス様を信じる者は、圧倒的な勝利者などではなく、あらゆる点において挫折していました。私たちも、また、多くの点で挫折をしているのではないのでしょうか。私たちも、しばしば、イエス様の名誉を汚してしまう者、また同じように主の働き
の妨げとなっているのではないのでしょうか。

二つのことが明らかです。

第一番目、信じる者は、全てにおいて勝利の生活を営みたいと切に願っています。もしそう
うでなければ、救われていないのではないのでしょうか。

もう一つ、聖書は、この勝利の生活が、いかにして私たちに分け与えられるかを示してい
ます。

けれどこれは、敗北の生活ではなく、「勝利の生活」を意味しているのです。

イエス様は、

ヨハネの福音書 8章36節

もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。

「子が…」、わたしがあなたがたを…です。

パウロは、

ローマ人への手紙 6章14節

というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたが
たは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。

そして、

ローマ人への手紙 8章37節

しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの
中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

これこそ、勝利を意味しています。

また、

コリント人への手紙・第二 2章14節

しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行
列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってください
ます。

ここでアンダーラインすべきことばは、「いつでも」、そして「至る所で」です。これも勝利を意味しているのです。

今私たちは、コリントの兄弟姉妹に向けたパウロのことばについて、考えたいと思います。ただ今読みました16章の13節、14節をもう一度読みます。

コリント人への手紙・第一 16章13、14節

目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。いっさいのことを愛をもって行ないなさい。

ここは、気持ちの良い忠告ではなく、それ以上のことが取り上げられています。すなわち、ここでは福音が宣べ伝えられています。

次のように言われています。

生けるまことの主なる神は、あらゆる信者が勝利の生活を送ることができるということを可能にしてくださいました。主は、命令を実行する力を私たちのうちにお与えにならずには、いかなる命令をもお与えになりません。私たちは良い忠告も必要としません。私たちが必要とするのは「福音」であり、「主イエス様そのもの」です。私たちが何をなすべきかを、だれかが私たちに語ってくれることは大切かもしれませんが、それよりはるかに大切なことは、だれが私たちに命令に従う力を与えてくださるのかということです、と。

この聖句が要求していることは、理論ではなく実践そのものです。これらの聖句は、ほとんど軍隊調の命令のような響きをもっています。将軍が指令し、最終的に統括します。「目を覚ましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。いっさいの事を、愛をもって行ないなさい」と。

主イエス様に出会った兄弟姉妹は、だれもイエス様の兵卒です。愛弟子であるテモテに、パウロは次のように書いたのです。

テモテへの手紙・第二 2章3節、4節

キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と苦しみをともにしてください。兵役についていながら、日常生活のことに掛かり合っている者はだれもありません。それは徴募した者を喜ばせるためです。

また、コリント第二の手紙5章9節に、初代教会の証しが宣べられています。

コリント人への手紙・第二 5章9節

そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。

人間にではなく、主に喜ばれることです。

今日、私たちは新たに、真剣に自分自身に問うてみましょう。私たちのために、ご自分

のいのちさえもお与えになってくださったお方に喜んでいただくことが、私たちの心からの願いなのでしょうか。イエス様を信じるだけでなく、本当にイエス様に喜んでいただきたいという願いが、極めて大切です。この願いを持っていない人は、祝福され得ないし、用いられることもできません。

私たちはこんにち、恐ろしい戦いの中に放り込まれているという事実を新たに認識したいと思います。

エペソ人への手紙 6章12節

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

「血肉」すなわち人間です。

私たちの戦いは悪霊に対する戦いである、とパウロはエペソにいる兄弟姉妹に書いたのです。けれども主イエス様に感謝しましょう。最後の勝利はすでに獲得されているからです。イエス様は、ご自分の死とよみがえりを通して、悪魔の力に対する完全な勝利を獲得してくださいました。イエス様は、父なる神の右に座しておられます。イエス様の獲得された勝利を、信じる者のすべての生活において明らかにさせるために、聖霊が遣わされました。この御霊様をご自由に働く場があるなら、私たちはイエス様の勝利にあずかります。それは、私たちの勝利ではなく、主イエス様の勝利です。この勝利にあずかるため、私たちはどうすればよいのでしょうか。

みことばの中でパウロは、五つのことに言及しています。私たちはそれをほかのことばで次のように言うことができるのではないかと思います。

第一番目、常に警戒し、用心すること。

第二番目、信頼によって強められること。

第三番目、成長して、完全におとなになること。

第四番目、主にだけ抛り頼み、依存すること。

第五番目、すべて愛をもって行なうこと。

*まず、第一の明確な命令は、「目を覚ましていなさい」ということです。

「あなたがたは目を覚ましていなさい」。常に警戒し、用心していることが大切です。私たちは、見回りをしている兵卒を連想します。目を覚ましていることは最高の掟です。というのは、敵はどんな瞬間でも攻撃をしかけて来るからです。これは、私たち全ての者に当てはまります。

三つの敵が私たちに対立しているのです。すなわち、

1. この世
2. 私たちの肉
3. 悪魔

です。

私たちが絶えず警戒し、用心していないと、これら三つの強力な敵が、私たちに襲いかかるのです。私たちは、これらの敵に対してどのようなことを知っているでしょう。

- ・ 私たちを取り巻くこの世について。
- ・ 私たちの内に住む肉について。
- ・ 私たちを攻撃する悪魔について。

1. まず私たちの最初の敵は、私たちを取り巻く「この世」です。

この手紙は、コリントにいる兄弟姉妹に書き送られたものです。コリントという町は、当時、ギリシャの最も大切な都市であり、商業と教育の中心地でした。コリントは豊かで美しく、魅力的でした。けれど他方において、罪と誘惑に満ちた所でもありました。コリントの兄弟姉妹は、ようやく少し前に信仰に導かれました。大部分の人は偶像礼拝者でしたし、道徳的に墮落した生活を送っていました。

けれど、彼らはイエス様との出会いを通して、自分たちの罪が赦されているということを知り、大いに喜ぶことができるようになったのです。「今からは、イエス様のために生きたい」ということが、彼らの切なる願いでした。しかし彼らを取り巻くこの世は、彼らを再び虜にし、無力にし、麻痺させるように、あらゆる手段を使って誘惑しました。

今、私たちがコリントにしようが、ニューヨークであろうが、ロンドンであろうが、ベルリンであろうが、東京であろうが、どこで生活しようが至る所で、私たちを取り巻いているこの世は、私たちを目くらにし、惑わし、快適な生活を欲するように誘惑します。

けれど、ヨハネを通して語られている極めて重大なみことばは、私たちにも当てはまります。

ヨハネの手紙・第一 2章15節から17節

世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。

2. 私たちの第二の敵は、私たちのうちに宿る「肉」です。

ここで「肉」とは、根本的には十字架の贖いにより滅び切っておりますが、改善され得ない私たちの生まれつきの罪の性質のことを意味しています。

パウロはそのことを知っていて、次のように告白しています。よく知られている、ローマ人への手紙 7章18節

私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。

そして最後に、パウロはどうにもならず次のように叫んでいます。

24節

私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

と。これが終わりではないとは、素晴らしいことです。

さらに、パウロは重荷が下ろされた気持ちで、次のようにことばを続けています。

25節前半

私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。

イエス様のうちに解放があります。

何としばしば私たちは、私たちの罪深い性質の虜になることでしょう。それは私たちが肉と罪、あるいは霊の罪を犯す時に明らかになります。

いわゆる肉の罪は、ガラテヤ書の中で述べられています。

ガラテヤ人への手紙 5章19節から21節前半

肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。

けれど霊の罪は、さらに巧妙です。すなわち、誇り、批判精神、不寛容などです。

3. 私たちの第三の敵は、私たちを攻撃する「悪魔」です。

悪魔は私たちの本当の敵であり、悪魔は強大な力を持っていて、私たち一人一人を失望・不信仰にしようと狙っています。悪魔はどんな代価を払ってでも、私たちにわざわざ陥れる決心をしています。私たちが勝利の秘訣を知らないならば、悪魔は私たちを手玉に取ります。

悪魔はいろいろな顔を持っています。

① ある時には、「ほえたけるしし」として誘惑します。

ペテロは、その第一の手紙5章8節に次のように書いたのです。

ペテロの手紙・第一 5章8節後半

あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

② 別の時には、「光の天使」として誘惑します。

コリント人への手紙・第二 11章14節後半

サタンさえ光の御使いに変装するのです。

とあります。

ですから、私たちが悪魔の考えをよく知ることは、どうしても必要だということです。パウロは次のように書いたのです。

コリント人への手紙・第二 2章11節後半

私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。

と。

私たちは、いかにすれば悪魔に抵抗することが出来るのでしょうか。そしてその結果、悪魔が逃げ出さなければならなくなるか、秘訣を学ばなければなりません。この世、肉、そしてサタン自身は、私たちを少しも休ませません。私たちは警戒し、用心していないと、わざわざです。

ですから、最も大切な命令は、「目を覚ましていなさい」です。サタンがあなたがたを陥れることがないように注意しなさい、ということです。

だれが日々、勝利を経験しているのでしょうか。私たちの最初の答えは次のとおりです。

- ・いつも警戒し、用心している人。
- ・目を覚ましている人。
- ・眠りに陥らない人です。

*第二番目、すなわち、信頼によって強められることです。「堅く信仰に立ちなさい」。

これもまた明確な命令です。よみがえりの書、コリント第一の手紙の15章の最後の節58節に、パウロはコリントにいる兄弟姉妹たちに書いたのです。

コリント人への手紙・第一 15章58節

ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。

ここで大切なことは、信じることではなく、信仰に堅く立つことです。

一冊の本を読む学生の写真が、ある新聞に出ていました。この学生は眼鏡をかけていて、かなり学識があるように見えました。そこに書かれている見出しがとっても面白いものでした。「成功する人は、勉強を始める人ではなく、勉強を始めてから、本当にその勉強を続けることのできる人です」と。

私たちの場合はどうなのでしょう。私たちはしばしば諦めてしまうのではないのでしょうか。戦いが激しくなり、攻撃はますます度を加え、絶望の可能性が非常に大きくなると、私たちはみな内面的に疲れてしまう危険にさらされます。けれど私たちは簡単に放棄する理由を持っていません。というのは、堅く立ち、動かされることなく、いつも主のわざに励むようにと命令されているのであれば、これは主によって可能でもあるからです。これらのみことばは、前述のよみがえりの書であるコリント第一の手紙の15章の終わりに記されています。

この書において、福音の内容が何であるか。それからまた、イエス様の復活の事実と栄光が何であるかが詳しく述べられています。それと同じように、信仰によってイエス様と結びついている者の復活が述べられています。さらに、私たちの主イエス様の再臨、また死と黄泉に対する勝利にも言及されています。

堅く立つこと、動かされないことは、どうしても必要です。そのとき、そこにとどまり、堅く立ち、動かされないことを可能にする内面的な確信の根拠となるものです。

では、その根拠とはいったい何でしょうか。それは「みことば」です。

私たちが拠り頼むべきものは、私たちの主の大いなる約束です。みことばを理解することではなく、素直に単純に信じることこそ、勝利の秘訣です。

信仰に堅く立ちなさいと言われるとき、私たちはいつも、私たちの信仰の唯一の土台が主のみことばであるということを、はっきりさせておかなければなりません。私たちは、分かったから信じるのではないのです。主は嘘を知らないお方であり、主が約束なさったので、安心して信じることができるのです。私たちが考えたり、感じたり、真理を見出したりするのではなく、主のみことばが語られることこそ、徹底的に大切なことなのです。それだけが、私たちの信仰の土台でなければなりません。

パウロは、テモテに次のように書いたことがあります。

テモテへの手紙・第二 2章15節

**あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じる
ことのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。**

と。

人は、真理であるみことばを曲げて生きること、すなわち、聖書を自分勝手に解釈することもできます。聖書批判全体は聖書の曲解です。私たちは、決して聖書の一箇所だけを聖書全体の中から取り出して来て、それによって自分が好ましいと思うことに当てはめようとするをしてはなりません。私たちが、主のみことばを判断すべきなのではなく、「主のみことば」が私たちをさばき、その心を整理したいと望んでおられるのです。

信仰に堅く立ちなさいという表現で述べられているもう一つの別の側面は、「主に信頼し続けなさい」ということです。誘惑や私欲によって屈服させられないようにしましょう。いろいろな困難や悩みがあなたの上に襲いかかり、あなたが理解できないような苦しみにも耐えなければならないとき、主に対するあなたの信頼を失わないようにしましょう。

悪魔の攻撃目標は、私たちの「信仰」です。私たちがもはや主に信頼できないようにと、悪魔はあらゆる代価を払って誘惑します。もちろん私たちは、偉大な私たちの主を多くの点において理解することはできません。そして私たちは、なぜ主がこのようなこと、またあのようなことをお赦しになるのか全く分かりません。またどんなに努力しても、私たちはその背後に立っておいでになる主のみ心を理解することができません。しかしそれにも

関わらず、信頼に堅く立つことが大切なのです。主は、主がなさること、お赦しになることをご存じです。私たちの信頼の土台は主のみことばであり、主の約束です。

みことばの中の最もすばらしい約束の一つは、ヘブル人への手紙の13章に書かれています。毎日覚えるべきことばではないでしょうか。

ヘブル人への手紙 13章5節後半から6節

主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう。」

大切なことは「主ご自身」、(天の使いではなく)主ご自身だけです。ただそれだけなのです。私たちの思っていること、考えていることではなく、主の言われていることばです。そこで、唯一の土台なるものは「主の約束」です。主は私のもの、助け手です。

私たちは次のようなときに、イエス様の勝利にあずかることができます。

第一に、いつも警戒し、用心して眠り込まないときです。

第二に、信頼によって強められるときです。(その土台は主の真実なみことばです。主のみことばに基づいて私たちは信頼することができます。主は決して失望させなさいません。)

第三に、成長して、完全におとなになるときです。「男らしくありなさい」という表現は、成長しておとなになることであり、本当の意味で成長することを意味しています。)

*第三番目、成長して、完全におとなになることです。「男らしくありなさい」。

ここで、次のような問いが生じてきます。

- ・私たちは、もうどのくらい長い間、主のものとなっているのでしょうか。
- ・私たちは、霊的な領域において、まだ幼いのではないのでしょうか。(これはパウロの悩みの種でした。)

コリント人への手紙・第一 13章11節

私が子どもであったときには、子どもとして話し、子どもとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どものことをやめました。

これはパウロの告白でもありました。私たちの場合はどうでしょうか。未成熟のしるしは、コリント第一の手紙3章3節によると、ねたみや争いです。

コリント人への手紙・第一 3章3節

あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。

パウロは、エペソにいる兄弟姉妹に次のように書いたのです。

エペソ人への手紙 4章13節

ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。

大切なことは、信仰の一致に達すること。また、御子イエス様に対する知識の一致に達すること。完全なおとなになることです。

けれどこれは、どうすれば可能なのでしょうか。

- ・ どうすれば、私たちはいつも警戒し、用心していることができるのでしょうか。
- ・ どうすれば、私たちは信仰によって強められることができるのでしょうか。
- ・ どうすれば、私たちは成長することができ、もはや幼子ではなくおとなとして信仰生活を送ることができるのでしょうか。

私たち全ての者にとって明らかなことは、このことが自分の力では絶対にできないということです。

私たちはどうしていつも挫折するのでしょうか。挫折しないためには、主イエス様がご自身の勝利の生活を私たちの中に生かすことがおできになるように、私たちはイエス様に、自由に働かれる場をお渡しすることが必要なのです。しかし私たちは自分で勝利の生活を獲得してしまうのです。私たちではなく、私たちのうちにおられるイエス様。これこそが勝利の秘訣なのです。

すべての挫折は、私たちが主の御霊の導きと働きに従う代わりに、自分の力でしようとしたことを示しています。もしそうであるなら、私たちが挫折するのは当然のことです。というのは、私たちはとても不可能なことを自分でしようとするからです。

自分の力によってはだれ一人、主に喜ばれる生活を送ることはできません。それは、全く不可能なことです。だれ一人、自分の力で勝利の生活を送れるほど強くはないのです。

けれど、私たちに対する命令は次のことです。「強くありなさい」と。

*第四に、主イエスにだけ拠り頼み、依存することです。「強くありなさい」。

このことが私たちの標語であるならば幸いです。なぜならば、自分の力でしようとすることは、全く無意味であるからです。

私たちは、この世とこの世の霊によって影響されずに、この世で生活することは絶対にできません。私たちは、私たち自身の墮落した性質を直そうとしたり、克服したりすることは絶対に出来ないのです。私たちは、自分の力で悪魔に対抗して勝利を勝ち取ることは、絶対に出来ません。

ですから、使徒パウロはエペソ書に次のように書いたのです。

エペソ人への手紙 6章10節

終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

聖書のどこにも、頑張り、一生懸命になって自分の力で強くなりなさいと書いてはありません。「主にあって強められなさい」。「主イエス様の大能の力によって強められなさい」と聖書は語っているのです。

さらに、パウロはことばを続けて、「神の武具を身に着ける」ことが、この戦いで勝利者となることであり、それがどうしても必要であることを記しています。

エペソ人への手紙 6章14節から17節

では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

- ・ 私たちの腰には、真理の帯が締められなければならない。
- ・ 私たちは、胸に義の胸当てを着けなければならない。
- ・ 私たちは、更に平和の福音を宣べ伝える備えをしていなければならない。
- ・ 信仰の大盾が、意識的に用いられなければならない。
- ・ 必要不可欠なものは、「御霊の与える剣としての主のみことば」です。

だれ一人、敗北を帰する必要はありません。私たちが挫折するのは、私たちが自分の力でしたからです。悪魔は、私たちに対する小さな試みをさせながら、それを見てあざ笑います。ですから、決して自分に抛り頼まないようにしましょう。

私たちはどうすれば主の勝利にあずかることができるのでしょうか。

今まで学んだのは、

第一に、いつも警戒し、用心していることによって。

二番目、神のみことばに信頼し、主に抛り頼むことによって。

三番目、子どものことをやめて、おとなに成長することによって。

四番目、いかなることがあっても、決して自分自身をあてにしないことによって。

最後に、もう一つの大切な点を見てみたいと思います。

*五番目、「いっさいのことを愛をもって行ないなさい」。

コリント人への手紙・第一 16章14節

いっさいのことを愛をもって行ないなさい。

私たちが愛によって、しかも主なる神の愛によって満たされることが、すべてにまさって大切なのではないのでしょうか。

- ・ 主の愛は、私たちの生活の中で明らかにされなければなりません。
- ・ 主の愛は、私たちの行ないによって示されなければなりません。
- ・ 主の愛は、私たちのことばの中で聞かれなければなりません。

それがいかにして可能なのでしょうか。みことばの答えは、ローマ書5章5節です。
ローマ人への手紙 5章5節後半

なぜなら。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

もうすでに与えられているのだと。

このみことばによると、新しく生まれ変わった者はだれでも、聖霊によって神の愛を持つ者なのです。聖霊は、全ての信仰者に与えられており、「御霊の実は愛である」と聖書は語っています。人間の心の中に神の愛があるのです。主なる神の愛で満たされるためには、私たちは聖霊で満たされなければなりません。キリスト者の特徴は、この愛であるべきです。

イエス様は、コリント第一の手紙にあるのと内容的には同じ意味なのですが、次のように言われました。

ヨハネの福音書 13章34節、35節

あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

「そのように」、まったく同じように、です。それによって全ての人認めざるを得なくなります。

私たちは今まで、勝利の秘訣について考えてきました。私たちは今、それがいかになされるかを知っていますが、ここで大切なことはこの知識を実践に移すことです。

私たちにその覚悟があるなら、私たちの生活は変えられるのであり、私たちは大いに喜びに満たされ、イエス様は私たちを、主の名誉と栄光のために、主に仕えるようにお用いになるに違いありません。

了